

日本人のふたりひとりが がんにかかっています

受けましょう がん検診

市では受付時間や予約人数の管理を行い、感染症対策を取った上で検診を実施しています。入場前の検温や手指消毒など市民の皆さんにご協力いただき、感染リスクの少ない検診を実施しますので、先延ばしにせず、受診しましょう。



検診の目的

がん検診の目的は、自覚症状が出る前の「早期がん」を発見し、適切な治療へつなげ、がんによる死亡を減らすことです。そのため、自覚症状のない健康な人の中から、「がんの疑い」がある人をふるい分ける検査を行っています。これに対し、自覚症状やがん等の既往歴がある人は、がんの可能性が高くなり、確実に診断するために、「診療」が必要です。「検診」と「診療」はその対象や目的が異なるため、自分はどこらを受ける方が良く理解した上で、検査を選びましょう。

検診のメリット

早期発見・早期治療による救命の効果
がん検診の最大のメリットは、がんを早期に発見することで命を守ることです。

がんの治療が容易
がん検診は自覚症状のない健康な人を対象に行っていることから、早期がんが多く発見されます。早期がんはそのほとんどが治り、しかも軽い治療で済みます。一方、症状があつて外来を受診した場合には、進行したがんが多く見つかります。臓器によって程度が異なりますが、治すことができない場合もあります。

検診のデメリット

がんが100%見つかるわけではない
がんが見つげにくい場所にあつたり、見つげにくい形である場合があり、検査の精度は100%ではありません。

しかし、年に1回（胃・子宮頸がんは2年に1回）、がん検診を受け続けることによって、早期にがんを発見できる確率は高まり、がんでの死亡を防ぐことにつながります。

心理的負担
検診により「がんの疑い」と判定された場合は、精密検査が必要となります。しかし、検査の結果、がんではない場合もあり、結果的にみれば必要な検査や治療が行われることがあります。その間、受診者には心理的に負担が掛かる場合もあります。

